富　山　県

新川農林振興センター　森林整備課　副主幹
高　橋　　由　佳

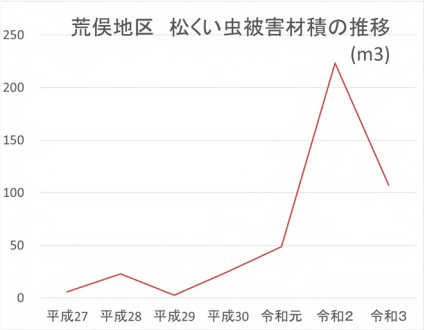
地域住民による海岸林保全活動への支援について

1　テーマの趣旨・目的

県内におけるマツクイムシ被害は、平成 26 年をピークに全体としては減少傾向であるが、管内では近年被害が急増している。その激害地の一つである黒部市荒俣地区の海岸林（面積約 4.3ha）は、県内でも数少ない貴重な白砂青松の海岸として地域に親しまれており、従来からマツクイムシ被害についての住民の関心も高い。近年の被害急増を受け、地域の海岸林を守り継いでいく目的で、地域住民を主体とする「黒部市荒俣地区松枯被害対策協議会」（以下、「地域協議会」）が一昨年設立され、情報交換や勉強会、被害対策活動などを実施することとなった。

今回、この地域住民の海岸林保全活動について、技術的側面や関係機関の連絡調整など様々な面から支援を行ったので紹介する。

荒俣地区の海岸林



荒俣地区の松くい虫被害材積の推移

2　現状及びこれまでの取組の成果・課題

（1）現状

当該地区のマツクイムシ防除事業としては、県による伐倒駆除（治山事業）、黒部市による薬剤散布（森林病害虫防除事業）および樹幹注入（市単独事業）が実施されているが、地域としても被害対策活動に参加したいという思いで、樹幹注入や被害跡地への植栽に取り組むこととなった。

地域協議会の活動実施にあたっての課題として、以下の３点が挙げられる。

(ア) 地域協議会は町内会役員等による組織であるため、被害対策について十分な知見があるとは言えない。

(イ) 複数の事業主体によって被害対策が実施されることとなるため、各々の棲み分けについて関係者間の調整が必要である。

(ウ) 被害対策の検討にあたり、被害の急増によって激しく変化する森林の現況を把握し、わかりやすく見える化する必要がある。

荒俣地区松枯被害対策協議会の設立総会

（2）取組内容

現状の課題を受けて、地域協議会への活動支援として、以下の３点を中心に取り組んだ。

(ア) 技術的支援

樹幹注入の実施にあたり、施工木の選定や薬剤本数の決定、活動に参加する地域住民への被害対策につ

いての講義を行った。

（イ）被害対策事業間の調整

地区内で県、黒部市、地域協議会の３者が被害対策を実施することとなるため、交通整理のために被害対策検討会を２回開催した。

1回目の検討会では地域協議会と市の樹幹注入施工地の棲み分けを検討し、２回目の検討会では地域協議会が計画している植栽工と治山事業での伐倒駆除作業が干渉しないよう調整を行った。

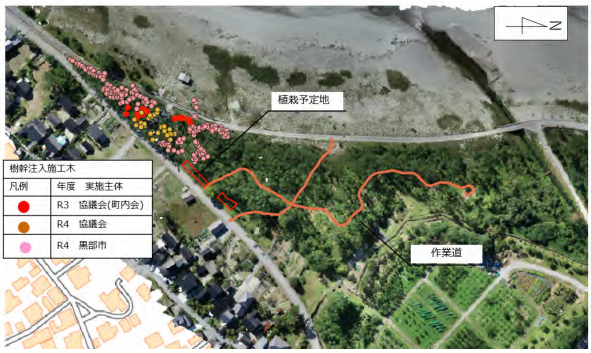
（ウ）IT 技術を活用した森林状況の把握

県森林研究所の協力でドローンによる航空写真の撮影・画像処理を行った。また、3D スキャンアプリ「mapry」や GIS アプリ「ForestTrack」を用いて、樹幹注入を実施した立木の配置や伐倒駆除の際の林内作業道の位置を調査、図化した。

これらを重ねて、既施工地や残存するマツの分布をわかりやすく示した図面を作成し、被害対策の検討や説明等に活用した。

県、市、協議会による被害対策検討会

地域による活動時の住民への講義



IT 技術を活用して作成した図面

（３）成果

地域協議会の令和４年度の活動としては、クロマツ 32 本（薬剤 70 本）に対して樹幹注入を実施し、また、次年度の活動として被害跡地約 250 ㎡へのクロマツ植栽を計画した。これに対し、技術的支援、事業間の調整、IT 技術の活用により、地域住民による被害対策活動が円滑に実施されるよう支援することができた。

また、令和５年度は、樹幹注入薬剤のメーカー等から講師を招き、地域住民を含む県内の幅広い関係者に対し、マツクイムシ被害対策に関する研修会を荒俣地区で実施することとしている。

（４）課題

地域住民による海岸林保全活動が円滑に実施できるよう引き続き支援するとともに、被害跡地の森林復元について、方針を検討し、関係者間の調整を図る必要がある。

３　今後取組むべき内容

被害跡地の森林復元について、更新をはかる区域や時期を検討するために、以下の方針で取り組みを進めていきたい。

(1)　被害の実態と森林の現況を正確に把握し、見える化して関係者間で共有するために、3D アプリ「mapry」を用いて荒俣地区の海岸林全体の毎木調査を実施し、立木位置図を作成する。

(2)　樹幹注入や伐倒駆除を実施した立木がわかるよう、被害対策実施の都度記録し、図面に反映する。

(3)　県、市、地域協議会等の関係者で、更新にかかる意見交換会や検討会を開催し、合意形成を図る。

(4)　植栽、保育にかかる技術的支援を行う。